

合格体験記 (AO方式入学者選抜)

第Ⅱ項 学芸 学部 情報メディア 学科 専攻
出身高校名 福井商業高校

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

映像や写真、音響、ウェブデザインといった技術だけではなく、社会的・文化的背景やメディアに関する理論的なことも学べるところに惹かれました。そして、オーパンキャンパスに参加した際に受けたミニ講義で、様々な話を聞ったり、教えてもらったりして、自分にはなかった新しい発想に刺激を受けた、ぜひ同志社女子大学で学びたいと思ったからです。また、他学科の授業も受けられるところもとてもいいと思いました。

(2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

私が高校3年間で学んできたことが「番生かせよ入試方法だ」と思っていたからです。推薦や一般入試では、主に学力がメインですが、AO入試では自分が今までにやってきたことやどうしてここに入りたいという気持ちをしっかり伝えることができます。普通科ではできない経験をたくさんしてきたからこそ、この方法で受験しようと決めました。

(3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

自分が高校3年間で取得してきた資格や部活動で身についたこと。資格は全国商業高等学校協会主催の資格の取得に努めることをアピールしました。取得した資格を紹介するだけでなく、その資格を取得するにあたって、どのような努力をしたか、どう成長できたか、これからどのように生かしていくかなどもアピールしました。他にも、私は情報処理科に所属していましたが、たくさん情報に関する知識や技術を身につけてきたというところも話しました。

(4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

自己アピール、志望理由書、課題レポートなどの書類も、最初に自分が書きたいことや伝えたいことを書きだすことから、とても書きやすくなりました。志望理由書では、自分の夢を叶えるためになぜ同志社女子大学の情報メディア学科でなければいけないのかを伝えました。課題レポートは、初めに様々な本を読んでから、自分の考えを書くようにしました。専門的で自分が知りなかったことなどもあると思うので、本を読んで知識をつけるのもいいと思います。また、きちんと指定された内容が書かれていなか、話がそれていなかということに気をつけながら書くようにしました。

〔面接〕

面接は過去の受験生の方々が聞かれたことを紙にまとめて自分が聞かれても答えられるようにしました。練習は毎日学校の先生に手伝ってもらいました。あまり関わったことのない先生に頼むことで、本番に緊張しないようにしました。フレゼンテーションはパソコンを使ったので画面ではなくきちんと面接官の方を見て話すのを心がけました。考えた文を全て暗記するのではなく、伝えたいことを何個か覚えて話したので、本番に緊張して話せなくなることはなかったです。パワーポイントを使うだけでなく、実際に高校の授業で作ったウェブサイトなどを動かしてみせることで、興味をもってもらったり、印象に残ったりするよう工夫しました。

(5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私はAO入試で同志社女子大学を受けようとしたのが7月頃と、とても遅かったです。だから、この短い期間で書くことをから考えいくことはすごく大変でしたし、部活や補習、体育祭の練習などたくさんのことと両立するのもきつかったです。しかし、忙しいなかの少しの時間に先生に添削してもらったり、書く内容を考えたり時間を使うことで、悔いなく本番に臨めたと思います。受験と学校のことを両立するのか大変なのはみんな同じだと思います。だからこそ、時間をよく使って、良い結果をだせようがんばってください!!